

秋季営農座談会資料

令和4年9月 JAみい

1. あいさつ

5. 園芸振興方針について (P 6)

2. JA事業報告 (P 1)

6. 農産物買取販売強化について (P 7)

3. 持続可能な地域農業を確立する取組について (P 2)

7. 生産資材関係について (P 8)

令和4年産 麦 肥料・農薬予約注文書 (別紙)

4. 高品質麦の安定生産の実践に向けてについて

8. その他

令和4年産「大豆・米」の集荷、販売方針について

(P 3～P 5)

座談会資料が必要な方は各支店・事業所に備え付けておりますので、お気軽にお声かけ下さい。また、JAみいのホームページにも10/4(火)以降に掲載する予定です。

【JAみいホームページアドレス】※「農のこと」に掲載しております

<https://www.ja-mii.com>

主要事業概況表

令和4年8月31日現在（単位：千円）

事業所名	正組合員数	貯金残高			貸出金残高			長期共済保有高（万円）			購買品供給高			販売品販売高		
		8月末計画	8月末実績	達成率	8月末計画	8月末実績	達成率	令和4年度 期首保有額	8月末保有高	期首対比	8月末計画	8月末実績	達成率	前年同月実績	8月末実績	前年対比
小郡中央支店	1,580	29,515,000	29,230,872	99.0%	5,116,097	4,989,495	97.5%	8,366,637	8,193,864	97.93%	9,046	17,266	190.9%	482,718	386,041	80.0%
北野中央支店	1,365	25,005,000	24,366,996	97.4%	4,039,701	3,948,801	97.7%	8,411,710	8,231,825	97.86%	8,674	12,660	146.0%	1,599,487	1,790,578	111.9%
大刀洗中央支店	1,378	22,993,000	23,022,690	100.1%	2,599,647	2,490,455	95.8%	7,108,626	6,946,933	97.73%	7,017	11,681	166.5%	390,835	349,682	89.5%
本店・営農センター		822,000	761,291	92.6%	929,312	929,312	100.0%							24	25	102.5%
農機燃料センター											284,500	310,063	109.0%			
ライスショップ												3,422				
経済センター											814,040	821,007	100.9%			
経済部											1,700	4,308	253.4%			
合計	4,323	78,335,000	77,381,849	98.8%	12,684,757	12,358,063	97.4%	23,886,973	23,372,622	97.85%	1,124,977	1,180,407	104.9%	2,473,064	2,526,326	102.2%

【 持続可能な地域農業を確立する取り組み 】

1. 令和4年度 経営所得安定対策について

対象者：担い手農家（認定農業者、集落営農、認定新規就農者）

内容：Ⅰ 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

Ⅱ 米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）

Ⅲ 水田活用の直接支払交付金

【参考】令和4年産 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）の単価について

小麦品種	単価(60kg当り)	二条大麦品種	単価(50kg当り)
シロガネコムギ(1等A)	6,510円	はるか二条(1等A)	6,840円
チクゴイズミ(1等A)	6,510円	はるさやか(1等A)	6,840円
ちくしW2号(1等A)	8,810円		

※ ビール麦は対象になりません。また大豆については収穫前のため未定です。

2. 肥料高騰対策事業について

① 概要

肥料価格の高騰による農家経営への影響を緩和するため、化学肥料の2割以上低減の取り組みを行う農業者に対して、肥料コスト上昇分の70%を支援する事業が決定されました。また福岡県も独自の上乗せ支援を決定し、肥料上昇分の15%（国と合わせて85%）を支援することになっています。

② 参加要件

今後2年間、化学肥料の低減に2割以上取り組むことが必要です。そのためメニューから2つ以上取り組み、すでに取り組んでいるメニューも行うことができます。その場合、1つ以上は従来の取り組みの強化・拡大とする必要があります。また福岡県の上乗せ支援を受けるためには、国の参加要件である2つのメニュー取り組みとは別にもう1つ、取り組みが必要です。

③ 国の支援内容

②の化学肥料低減の取り組みを行った上で、前年度から増加した肥料費について、その7割を支援金として交付します。

$$\text{支援金} = (\text{当年の肥料費} - \text{当年の肥料費} \div \text{価格上昇率} \div \text{使用量低減率}(0.9)) \times 0.7$$

④ 対象となる肥料

対象となる肥料は、次のとおりです。

○令和4年秋肥

（令和4年6月～10月までに購入又は購入することが確実で、令和4年秋用肥料として使用）

○令和5年春肥

（令和4年11月～令和5年5月までに購入又は購入することが確実で、令和5年春肥として使用）

但し、福岡県の上乗せ支援は、令和4年6月から令和5年3月までの購入又は購入することが確実なものに限ります。

※ 申請手続きについてはHPや回覧等を通じてご案内致します。

3. 農業経営等に関する取り組み

① 集落営農組織・個別経営体の法人化支援

農地中間管理事業の活用、法人化に関する研修会の開催を行います。

② 新規就農者支援

農地・栽培品目・資金・補助金等の相談支援をJAと関係機関が連携し行います。

③ 青色申告

青色申告データを基に経営分析を行い農家所得向上への支援を行います。

また、JAみい青色申告会への令和5年分からの入会希望者説明会は下記の予定です。

日時：令和4年11月18日（金）第1回目 10:00～ 第2回目 14:00～

場所：JAみい営農センター

※ 詳細は11月号アグリピープルに掲載予定です。

問い合わせ先 JAみい営農センター 青色申告会 TEL 78-7755

4. TAC活動について

「地域農業の担い手」に日々出向き、その「担い手」の声・要望を収集しJAにつなぐことにより、JAグループの事業に反映させJAグループの事業基盤の充実に貢献していきます。

現在、3名のTACが兼任として活動を行っておりますので、皆様方にお伺いした際には雑談でも構いませんので、声をかけてやって下さい。

5. 労災（労働者災害補償制度）

JAみいでは、事業主及び家族従事者が加入できる労災保険の特別加入制度の労災組合（特定農業従事者・指定農業機械作業従事者）があり、アグリ協同組合を通じての加入ができます。

特別加入制度とは、労働者以外の方のうち、業務の実態や災害の発生状況からみて、労働者に準じて保護することがふさわしいと見なされる人に対して労災保険に加入することを認めている制度です。

① 特定農作業従事者（年間販売額300万円以上又は経営面積2ha以上の方が加入できます）

Ⅰ トラクター等の農業機械を使用する作業 Ⅱ 2m以上の高所での作業

Ⅲ サイロ等の酸欠危険のある作業 Ⅳ 農薬散布 Ⅴ 牛・馬・豚に接触する作業

② 指定農業機械作業従事者（指定された機械を使用し農作業を行う方が加入できます）

動力耕耘機その他農業用トラクター・動力溝堀機・自走式田植機・自走式防除用機・自走式動力刈取機・自走式収穫用機械・自走式運搬用機械・動力脱穀機や動力草刈機などの定置式または携帯式機械・無人航空機

詳しくは各支店営農経済課へお尋ねください。

高品質麦の安定生産の実践に向けて

1. 福岡県産麦の生産について

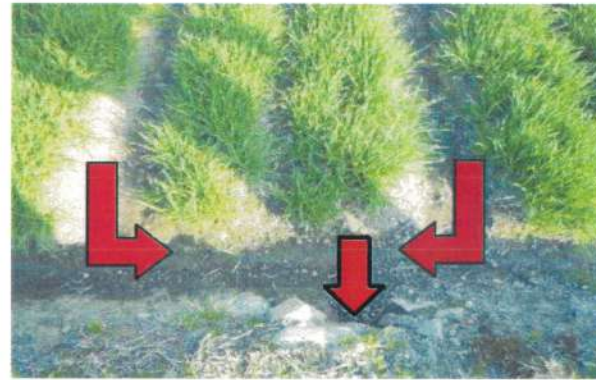
麦は、水田農業の基幹作物であり、担い手経営を支える重要な品目として生産振興を図ってきました。

令和4年産麦については、近隣県も含め元年産から4年連続の豊作となっており、実需者段階で在庫が積み上がっているため、購入希望数量が低迷している状況ですが、実需者からの福岡県産麦に対する評価は高く、引き続き高品質で安心・安全な麦の安定供給が強く求められており、需要に即した生産誘導に取り組んでいきます。

(1) 排水対策（土入れも含む）

- ・地表排水は、周囲溝（額縁排水）と、うね溝（圃場内排水溝）が基本
- ・スタブルカルチ等のプラウによる荒起しは排水効果が高い
- ・補助として弾丸暗渠や心土破砕（サブソイラ等）を施工

みぞをつないで落水口から排水させることが重要



落水口

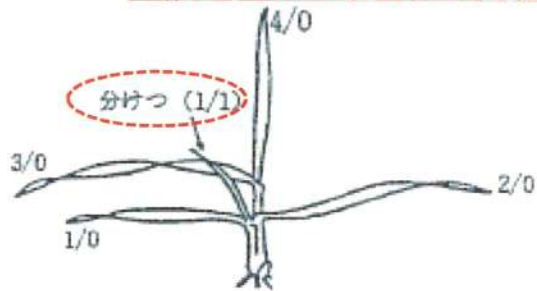
- ・雑草の発生抑制、ほ場の排水性の向上などの効果があるため、土入れを2～3回実施。
- ・溝はしっかり落水口につなぐ。

※ 麦踏みと土入れは、土壌が良く乾いた時に行い、土入れは麦踏み前に行う。

(2) 麦踏み

- ・茎数の増加、倒伏防止、凍霜害の回避などの効果があるため、麦踏みを2～3回実施。

※ 麦踏みと土入れは、土壌が良く乾いた時に行う（葉数3枚目～茎立期）。



分けつの出方

主稈の第4葉が出ると第1葉から分けつが出てくる



- ・節間伸長開始期前（麦踏みの晩限：草丈20～25cm程度）までに実施。

(3) 施肥（追肥1回目、2回目）

- ・追肥は、品種に応じた適正な追肥量を施用。
 - 1回目追肥（1月下旬頃）・・・茎数の増加
 - 2回目追肥（茎立ち期頃）・・・穂数、粒数の増加



図 茎立ち期（節間伸長開始期）の目安

追肥後は、必ず土入れを実施。

(4) 雑草防除 麦作除草剤の種類

播種前・播種時	非選択性除草剤	(ラウンドアップなど)
播種後	土壌処理剤	(リベレーターなど)
生育期	茎葉処理剤	(ハーモニーなど)

2. 麦類令和4年産作付面積実績と令和5年産作付面積計画（播種前契約より）

（採種の面積は含みません）

単位：h a

施設 品種	北野CE		吹上・八坂CE		大刀洗CE		みい地区計	
	4年産 実績	5年産 計画	4年産 実績	5年産 計画	4年産 実績	5年産 計画	4年産 実績	5年産 計画
チクゴイズミ	68.2	64.5	175.0	170.8	124.6	137.0	367.8	372.3
シロガネコムギ	86.9	85.4	128.8	140.5	169.8	172.6	385.5	398.5
ちくしW2号	—	—	318.9	309.2	—	—	318.9	309.2
はるか二条	66.9	69.9	—	—	—	—	66.9	69.9
はるさやか	—	—	262.7	278.4	83.0	82.9	345.7	361.3
計	222.0	219.8	885.4	898.9	377.4	392.5	1484.8	1511.2

大豆新品種「ちくしB5号」の導入

J Aみいでは令和6年産より『ちくしB5号』へ全面転換いたします

～大豆品種切替えの背景～

J Aみい大豆生産は、現在の栽培品種「フクユタカ」において、播種時期の長雨による播種遅れや登熟期の天候不良による大粒比率の低下等により、平均単収が200kg/10aに届かない状況が続いています。

そこで、試験栽培を重ねた結果、令和7年産からの福岡県全面転換を踏まえJ Aみいでは、フクユタカの採種原種の栽培があるため、令和6年産より大豆の生産向上に向けて、現品種の「フクユタカ」から新品種「ちくしB5号」への全面転換を行います。

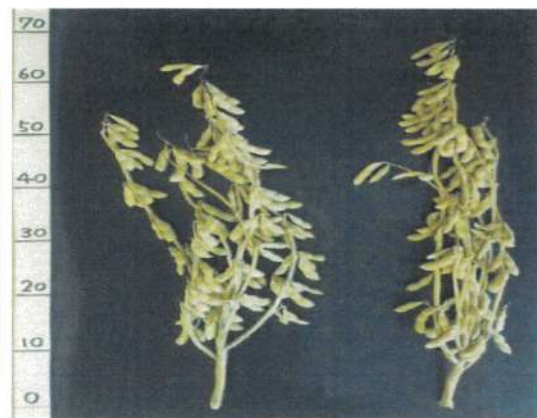
● J Aみい大豆作付面積・反収の推移

	平成27年産	平成28年産	平成29年産	平成30年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産
作付面積 (a)	61,537	60,943	61,629	61,138	60,481	60,167	48,583
反収 (kg/10a)	176	188	195	181	122	133	93

ちくしB5号 品種特性

フクユタカに比べて

- 成熟期が2日程度早い
- 草丈がやや低く、倒伏に強い
- 粒は大きく、収量は8%多い
- 最下着莢高が高く、収穫ロスが少ない
- 6月下旬からの早播ができる



草姿の比較

ちくしB5号 (左)、フクユタカ (右)

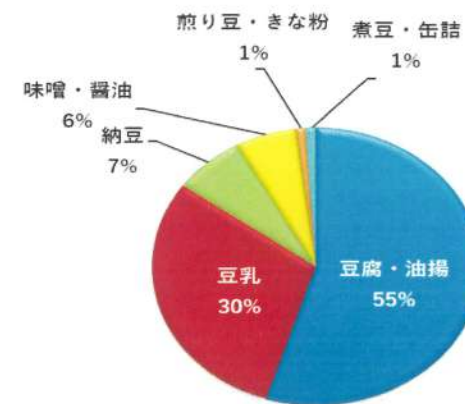
令和4年産大豆の集荷・販売方針について

大豆の重点販売戦略

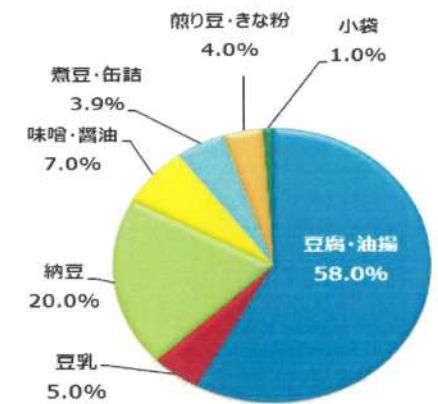
(1) 豆乳実需者向けの販売拡大

国産大豆の主な用途は、豆腐、納豆、味噌等であるが、福岡県産大豆の特徴の1つに豆乳向け原料の使用割合が高いことがあげられる。豆乳は飲料以外に料理用途でも販路を伸ばしており、大豆食品業界の中でも市場規模は年々拡大してきた。令和3年は、他の植物性ミルクの登場で若干生産量が減少したものの、底堅い需要を保っている。「株式会社ふくれん」は豆乳向け販売の最大の需要先であるが、令和元年産から3年産は、大幅な減産により供給量が不足したため、九州産以外大豆を使用している。今後も安定的な契約販売を見込める豆乳向けについては積極的な販売を行い、単収向上による安定供給により、需要回復及び販売拡大に取り組む。

福岡県産大豆用途割合(2年産・全農集荷)



国産大豆用途割合(2年産・全農集荷)



また、「安定供給による長期的な需要確保」「産地・規格の特性を生かした有利販売」を重点目標とし、以下の点に取り組むこととします。

1. 有利販売に向けた高品質大豆の安定供給

- ① 播種前契約栽培による安定供給
- ② 消費者が求める高品質大豆の生産推進

2. 産地PRを強化した販売力の強化

- ① 産地のPRを強化
- ② 産地ごと実需者との交流に取組み、契約栽培等による有利販売
- ③ 規格(粒度、等級)別の取組み

3. 安全・安心な大豆生産への取組み

- ① 生産履歴の全農家記帳とトレーサビリティシステムの確立
- ② GAP(農業生産工程管理)の啓発・推進
- ③ 農薬安全使用の徹底と残留農薬検査の実施
- ④ ポジティブリストへの対応

※ 令和4年産 大豆の注意点

畝間以外のラウンドアップマックスロード散布は、子実への影響・残留農薬の観点から使用禁止と致します。

米穀情勢について

米穀事業については、生産者の経営安定を図るため、「需要者・消費者から求められる品種構成・生産」・「JAの安全なお米としてのブランド化と集荷・販売促進」を行い、実需者との結びつきを確立し、JAグループ一体となり全量販売に取り組みます。

令和3年産では主食用作付面積は130.3万ha（前年比▲6.3万ha）、生産量701万トン（前年比▲22万トン）となり、前年より作付面積は減少したものの、国が策定する需給見通しに基づく適正面積（▲6.7万ha）からは若干上振れしております。

需給においては、コロナ禍に伴う需要減少や持越在庫の増加（30年産12万トン→元年産22万トン→2年産42万トン）により需要量は702万トン（前年比▲2万トン）となりました。

令和4年産の需給については、国が策定する需給見通しに基づいた必要な作付け転換の▲3.9万haを達成する見込みであるが、作柄状況によっては供給量が増加することも想定される。需要量については消費量が年々減少している状況に加え長期化しているコロナ禍に伴う影響等、これらの動向を注視する必要があります。また、令和3年産米の持越し在庫が前年より更に増加し、45万トン以上が想定されるため、現行の需給環境の長期化が懸念される。

このような中、福岡県産米の販売は、JAグループ福岡の生産・集荷・販売方針に基づく県内需要向け販売を中心とした、JAのお米『金のめし丸』県産米のブランド化戦略の実践等により、玄米の販売価格は全国銘柄の中で高い位置にあり有利販売ができておりますが（別紙1参照）、令和4年産は全体需給や需要動向を注視しながら販売に取り組んでまいります。

以上の米情勢を踏まえ、JAみいは以下に掲げる項目を重点対策とし、その実践に取り組みます。

1. 自主的生産調整を促し、価格安定を図る
2. 生産調整に対し、第一に農家所得を考え大豆の作付振興を行う
3. 大豆の作付が難しい地域については、飼料用米等への転換を図る
4. 販売面では、販売先と産地の結びつきを基本とした生産・集荷・販売の取り組み
5. 産地の特色を活かしたJAふくおか米の確立

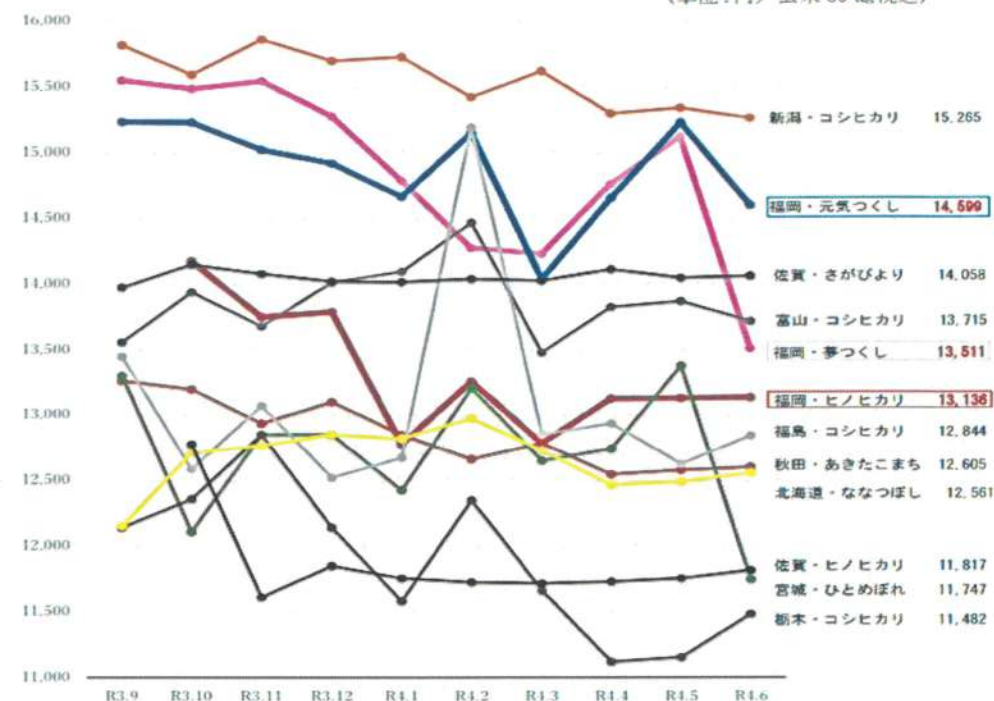
※JA米の要件

- ① 銘柄が確認できた種子により生産された米穀（種子更新率 100%）
- ② 登録検査機関で受検した米穀
- ③ 生産基準に基づき栽培され、栽培履歴記帳が確認された米穀

別紙1

令和3年産米の相対取引価格（令和4年6月）（速報）

（単位：円／玄米60kg税込）



令和4年産米穀概算金

（円/60kg、裸、税込み）

品 種	等級	令和4年産①	備考(参考)		
			令和3年産②	令和3年産との 差額(①-②)	令和4年産 ふくれん概算金
夢つくし	1	11,700	11,700	0	11,700
	2	11,400	11,400	0	11,400
	3	10,380	10,380	0	10,380
元気つくし	1	11,700	11,700	0	11,700
	2	11,400	11,400	0	11,400
	3	10,380	10,380	0	10,380
ヒノヒカリ	1	10,200	10,500	-300	10,200
	2	9,900	10,200	-300	9,900
	3	8,880	9,180	-300	8,880
実りつくし	1	9,900	10,200	-300	9,900
	2	9,600	9,900	-300	9,600
	3	8,580	8,880	-300	8,580
ヒヨクモチ	1	※	12,720		
	2	※	12,420		
	3	※	11,400		

※ヒヨクモチについては、10月決定予定

【園芸振興方針】

農業を取り巻く環境は、国際情勢の不安定に伴う円安・原材料価格の高騰また物価高による消費の冷え込みで販売環境は厳しい状況にある。販売単価は上がらず価格低迷が続き、再生産価格を割る大変厳しい販売環境となっています。

今年の夏場においては、梅雨時期の降水量も少なく、猛暑日続きで農産物においては、高温障害による生育不良が多く発生しました。また、東北・北海道の産地では、度重なる豪雨の影響で農産物に甚大な被害をもたらしています。

花卉類については、猛暑が続いたことで日持ちの懸念から消費が鈍化し軟調な相場展開となった。輸入花卉の不安定さはあるが平年並みの物量があるなか物流コスト増大で商談価格上昇しており国産品への期待は高い。

上記を踏まえて、気象環境や販売環境に左右されない強い産地づくりを目指し、販売体制の拡充と販促機能の強化をはかり、再生産価格の確保と農家所得の向上へ向け、農業経営の安定や販売の基盤強化を図ります。

【共 販 共 撰 の メ リ ッ ト】

※団結し、安心・安全で高品質な農産物を安定的に供給することで、消費地と産地信頼関係を構築し、実需者から必要とされる産地づくりを通し厳しい販売環境下でも安定した価格が確保できる産地基盤を目指しています。

- ① 「食べてみ!」のブランド化で、全国の卸売市場39社+直販業者22社に販売を展開している。
- ② 直販事業による販売で、実需者が求める情報を敏速にキャッチし、商品提案がスムーズに行われ有利販売に努めている。
- ③ 約60種類の野菜をセット販売し、全国の卸売市場や量販店へ出荷。
- ④ 部会・研究会組織の充実化を図り生産者増員を図っている。
- ⑤ 大型冷蔵庫による予冷と真空予冷設備にて青果物の鮮度を保ち品質維持に努めている。
- ⑥ 野菜ソムリエや販売士取得者による、販売戦略に即した提案型営業で、有利販売が出来ている。
- ⑦ 契約や相対取引等を重視した販売で、生産者の手取り向上を目指している。

このように、当JAみいでは、多角化戦略を行うことで、組合員さんの所得向上を目指してメリットが出せるよう（売る力強化）行っています。

1. 野菜作付け推進

① スイートコーン

土地有効利用品目として推進。播種2月中旬～ 収穫6月上旬～7月
発芽適温 22～30度 最適PH 5.0～8.0 連作障害あり

○効果・効能 疲労回復・便秘解消・整腸作用・健脳効果
血中コレステロール値低下

② オクラ

ネバネバ野菜の代表野菜 播種3月下旬～ 収穫6月下旬～10月上旬
8～10本入れてネット袋詰め

発芽適温 25～30度 最適PH6.0～6.5 連作障害あり

○効果・効能 粘膜の強化・整腸作用・動脈硬化予防・疲労回復

③ モロヘイヤ

摘芯を兼ねて長期間収穫できます。播種4月～ 収穫7月上旬～9月下旬
発芽適温 30度 最適PH5.5～6.5 連作障害なし

○効果・効能 粘膜の強化・肝機能強化・骨粗しょう症予防など

2. 花卉作付け推進

① 博多新テッポウユリ

福岡県のブランド品目として推進。1ケースに50本入り
播種12月、定植3～4月 夏場収穫7～8月

② ヒマワリ

安定性生産と共販の充実、転作品目として推進。

1ケースに50本入り 他の品種に比べると経費が少なく済みます。
播種3月 収穫5～10月

③ トルコギキョウ

施設栽培に適して秋を中心に出荷できる。業務需要に幅広く使用され価格も安定しています。苗は、委託苗（播種5月頃）で準備が出来ます。

1ケース20～40本入り定植7月下旬～8月中旬収穫10～11月

■ 営農部販売促進課

1. 農産物買取販売について

○野菜類の買取りについて

販売促進課は組合員さんと品目、単価、数量等話し合い、野菜の買取りを行っております。現在、卸売市場、小売店、加工業者、飲食店等を中心に販売しています。

今年度は、特に朝取りスイートコーンの販売、加工用野菜（高菜、ブロッコリー、南瓜等）の買取りを強化し、販売を行っております。



2. 米の買取強化について

○販売促進課は直接組合員さんからお米を買取ります。

※販売促進課の買取りメリット

- ① 組合員さん宅へ直接買取りに伺います。
- ② 紙袋、フレコン等にて買取りします。(フレコンは準備します。)
- ③ くず米のみの買取りも OK です。
- ④ 買取り代金は一括でお支払い致します。



3. 6次化商品の企画販売について

○みい管内で生産された農産物を活用し、6次化商品の販売を行っております。

●JAみい6次化商品のご紹介

- ① 夢つくしを使用して作った、『ふっくら白がゆ』
- ② 肉厚で歯切れの良い高菜で作った『からし高菜漬け』
- ③ 新鮮な小松菜とJAみい合わせ味噌で作った『小松菜のお味噌汁』



※現在みい管内では、めぐみの里、大刀洗Aコープにて販売しております。
(小松菜のお味噌汁、白がゆは各支店で販売しております。)

経済部 生産資材課

新肥料の紹介

e・greenシリーズ

福岡市が和白水処理センターで回収した再生リンをJA全農ふくれんに供給し、再生リンとJAみいの堆肥を使ったエコ肥料です！水処理センターでは、博多湾の環境安全をもくてきとして、高度処理に取り組んでいます。下水を浄化する過程で、りんを回収し、これを「再生リン」として有効活用しています。

保肥力を高める

堆肥は土壌の保肥力（CEC）を高める効果が望めます。

土壌の団粒構造促進・微生物層の改善・りん酸の固定化を和らげる効果が高まります。

養分利用率を高める

e・greenに含まれる肥料の養分が、堆肥に含まれることにより、養分利用率を高める効果が望めます。

養分が堆肥に保持されることで土壌中への流亡が軽減されることで、作物の養分吸収が向上し、健全な生育に役立ちます。

※表示価格は令和4年9月の価格です。



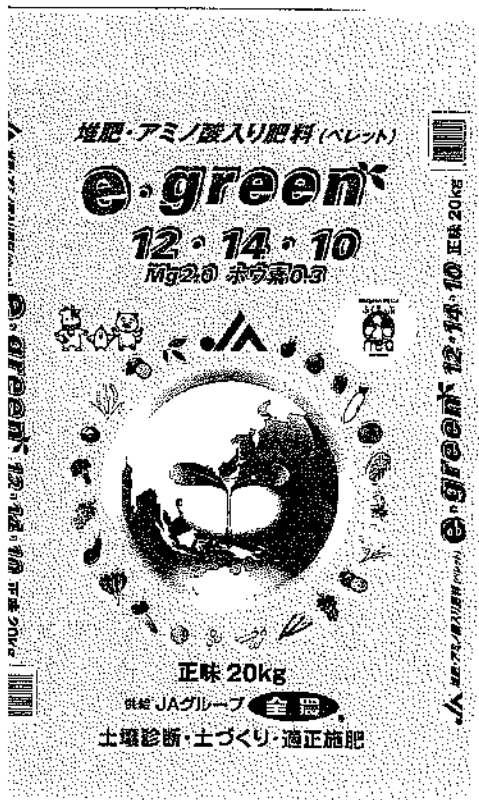
リン・加里を抑えた高窒素肥料！

品名： e・green14-5-5

窒素：14% リン：5% 加里：5%

土壌診断などによりリン、加里が適正、肥沃な圃場むけ。減肥でコストの圧縮に繋がります。

当用価格 2,468円 (税込)



微量元素も入って園芸作物に最適！

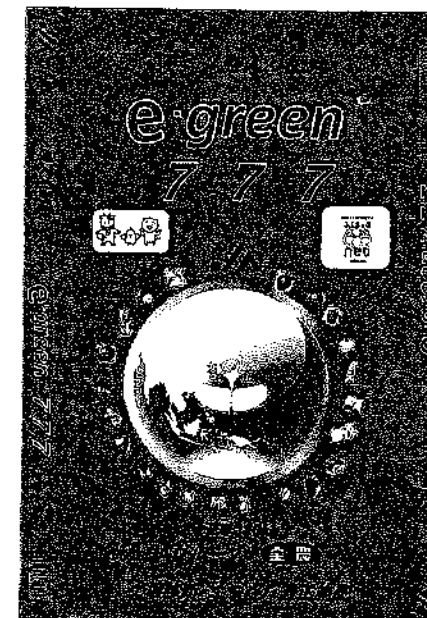
品名： e・green12-14-10

窒素：12% リン：14% 加里：10%
苦土：2% ホウ素：0.3%

高成分、微量元素入り肥料！

幅広く作物に適用でき、微量元素を配合することで、欠乏症の軽減に役立ちます。

当用価格 3,249円 (税込)



堆肥、有機質 高含有肥料！

品名： e・green7-7-7

窒素：7% リン：7% 加里：7%

窒素・リン・加里をバランス良く配合し様々な作物に使用できます。

当用価格 2,437円 (税込)